



## 設立 50 年, 開催 500 回, 発表 10,000 本の歩み The Weight of 50 Years of Establishment, 500 Times Holding and 10,000 Papers

前田英作

パターン認識・メディア理解 (PRMU) 研専では、その前身であるパターン認識と学習 (PRL) 研専が 1972 年 4 月に最初の研究会を開催して以来、2017 年 3 月までの 45 年間に 438 回の研究会が開催され、8,584 本の研究発表がなされた。現在、二日間の研究会を年 8 回開催し年間 200 本を超える研究発表があることから、2021 年には設立 50 年、2024 年には開催 500 回、発表論文 10,000 本に達する。

1972 年に発足した PRL 研専は、更に遡れば、1952 年に発足したインホメーション理論研専と、1954 年に発足した自動制御研専をその源流とする。この二つの研究会は 1962 年から緊密な友好関係にあり、1972 年に、飯島泰蔵先生を委員長とする PRL 研専と、福村晃夫先生を委員長とするオートマトンと言語 (AL) 研専とに改称再編された。情報の表現としての「パターン」と「言語」のうち、パターンを担う PRL と言語を担う AL という整理であった。このとき、飯島、福村両先生によって書かれた檄文の一部を引いておきたい<sup>(1)</sup>。

「貴重な研究業績を、単なる学問発展のために昇華させるといっただけでなく、このことによって新しい技術を生み、新しい技術社会の招来に対して大きく貢献しようとするのでなければ、工学を以て任ずるところの当業界に対して、真の寄与をなしたことになる」(飯島)

「情報技術者は、現在、家なき子である。だからこそ、実際という大地に根を下ろし、理論の骨格に支えられた、住み心地良い我らの巣が欲しい。そして、応用という広漠たる空間に自由に手をさしのべうる明日を築きたい」(福村)

その後、1986 年にパターン認識・理解 (PRU) 研究会と改称し、「シーン理解、知識獲得、知識モデル化の研究、工業応用、医療応用、教育応用、文書理解、顔画像認識、動画像認識」へと対象を広げる。そして、インターネット、マルチメディアの興隆を背景に 1996 年

PRMU 研専と再度改称し、「情報を機械に取り込むためのセンサとして画像や音声を扱うこと」から「機械を通して情報を人間に伝えること、すなわち、インタフェースとしての画像や音声」へとそのスコープを広げた<sup>(2)</sup>。

およそ半世紀にわたる本研究会の活動は、昨今の機械学習の興隆につながるパターン認識基礎理論と画像を基点として映像、音声、言語をも巻き込んだ広範な応用領域との間をバランス良く行き来したものであった。そして通常研究会以外に本分野の啓発、普及、発展を目的とした活動にも力を注いできた。本年度で 20 回を迎え参加者 700 人を超えるまでに成長した画像の認識・理解シンポジウム (MIRU、情報処理学会 CVIM 研究会と共催)、若手研究者の育成を狙い自主的活動を支援する若手プログラム、学部学生の教育を主眼としたアルゴリズムコンテストなどである<sup>(3)</sup>。また同時に、時代の変遷を見据え、今後取り組むべき課題を再考し問題提起を行う取組みも行っている<sup>(4),(5)</sup>。

### 文 献

- (1) 飯島泰蔵、福村晃夫、「研究会名の改称と今後の方針について、」信学技報、AL、PRL72-1, pp. 1-4, April 1972.
- (2) 大田友一、武川直樹、横矢直和、全 炳東、萩田紀博、「パターン認識・理解」から「パターン認識・メディア理解」へ、」信学技報、PRMU96-1, pp. 1-8, March 1996.
- (3) 内田誠一、藤吉弘巨、前田英作、「パターン認識・メディア理解研究会 (PRMU) と画像の認識・理解シンポジウム (MIRU),」信学情報・システムソサイエティ誌, vol. 21, no. 3, pp. 14-16, Nov. 2016.
- (4) パターン認識・理解の新たな展開—挑戦すべき課題—, 小川英光(編著), 電子情報通信学会, 1994.
- (5) 鷺見和彦、内田誠一、佐藤真一、佐藤洋一、日浦慎作、福井和広、馬場口 登、「パターン認識・メディア理解の 10 大チャレンジテーマ、」信学誌, vol. 92, no. 8, pp. 665-675, Aug. 2009.

(平成 29 年 5 月 15 日受付 平成 29 年 5 月 23 日最終受付)



前田 英作 (正員: フェロー)

昭 59 東大・理・生物卒、昭 61 同大学院修士課程了。同年 NTT 入社。以来、パターン認識、機械学習などの研究に従事。同社コミュニケーション科学基礎研究所所長を経て、現在東京電機大教授。工博。著書「わかりやすいパターン認識」「コミュニケーションを科学する」[環境知能のすすめ]。

前田英作 正員: フェロー 東京電機大学  
Email eisakumaeda@gmail.com  
Eisaku MAEDA, Fellow (Tokyo Denki University, Tokyo, 120-8551 Japan).  
電子情報通信学会誌 Vol.100 No.10 p.1072 2017 年 10 月  
©電子情報通信学会 2017